初乳の給与について

令和7年 11 月　宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所

寒くなり、子牛の下痢症や呼吸器症が心配な季節となりました。免疫を獲得するために初乳を上手に使い、健康で丈夫な子牛づくりを目指しましょう。

初乳を上手に使うポイント

①清潔な搾乳機器で搾る

チューブ類の定期交換も忘れずに！

洗浄・殺菌は必須！

搾乳機器が汚れていると菌が混入！整備点検も忘れずに実施しましょう。

②初乳の品質を確認する

糖度計（Brix 計）

糖度計で抗体量を予測。Brix 値 22%以上が目安です。

抗体量は、色や産次数では正確に推測できないので、計測してから使いましょう。

③血乳、漏乳、乳房炎罹患牛の初乳は使用しない

漏乳している初乳では抗体量が減少します。また、搾った初乳は、乳房炎に罹患していないか PL テスターで確認しましょう。

④低温殺菌でリスクを減らす

写真は低温調理器の活用事例です。１～2 万円の低コストで実施できます。

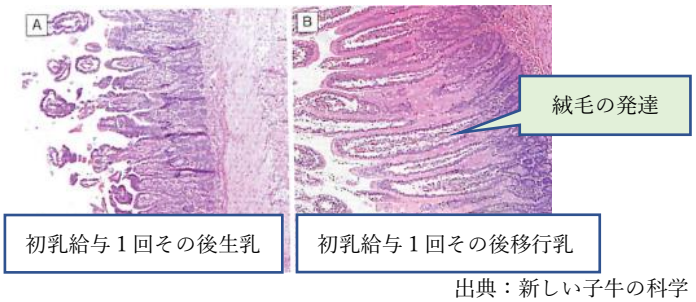
パスチャライザー等で低温殺菌を実施し、細菌やウィルスなどの感染リスク軽減をはかりましょう。

⑤生後できるだけ早く、飲めるだけ給与する

小腸では、抗体と菌を区別して吸収することができません。菌より先に抗体が吸収できるように、生後 6 時間以内、遅くても 12 時間以内に飲めるだけ飲ませましょう。

⑥移行乳も有効活用！

3 日齢子牛の小腸絨毛



出典：新しい子牛の科学

移行乳には、脂肪やたんぱく質が豊富に含まれています。また小腸の絨毛発達を促進する効果もありますので、廃棄せず使いましょう。